

MY STORY BY 吉田 徹

僕は子供の頃、友達といえる友達は多くありませんでした。自己中心的なところもあったので、中学の頃はいじめを受けたこともありました。そんなこともあり「周りに気に入られるにはどんな会話をしたらいいのか」とか考えるようになり、自分のことをどう思っているのだろうかとか周りからの視線や圧力などが気になって仕方がありませんでした。

時々僕は自分の要求がかなうようにと、子供ながらに神様に祈っていました。そしてその多くは現実のものとなりました。そんなこともあり私は「神様は本当にいてるんだ。」と考えるようになりました。ただそれは人間それぞれに神様がついているという考え方でした。

僕が大学4回生の時に同じ研究室であった友達が、1年前にクリスチャンになったことや神様のことなど、いろいろと話をしてくれました。もともと神様の存在を信じていた僕はそのことを話したのですが、その友達に「すべてにおいて最高である神様って一人しかいてへんちゃうかな。」と言われて非常に納得したのを覚えています。そして彼の友達ともランチを食べに行ったりもしました。彼の友達と初めて会った時、「なんやこいつら、めちゃんれなれしいな」と思っていました。しかし何回か会ううちに「何かこいつらは自分に持っていない特別なものを持ってなあ」と感じるようになりました。彼らの共通点はクリスチャンであるということだったので、みんなの勧めもあり教会に行くことにしました。

それから僕は時々教会に行って、いろんなクリスチャンの人とコミュニケーションをとるようになりました。教会に行くと自分の心が平安で満たされることがわかりました。ですが教会を離れるとまたむなしさが自分の心を襲ってきました。そうしているうちに、クリスチャンはイエス様が心の中心となって、神様の愛を持っているから、普通の人間とは違う特別なものを感じたんだ、とわかりました。それからというもの早くクリスチャンになりたいと思うようになりました。でも一方では「やっぱ宗教なんちゃうか?」とか「自分の考え方を捨てるのは、、、」とかいろんなことを思い悩んだりしていました。

ある日僕は名古屋にある教会の牧師先生からもらった聖書を持って学校へ向かいました。電車もすいていたため座って、何気なく持ってきた聖書を読むことにしました。友達から「コヘレトの書は短いし読みやすいで」ということを聞いていたので読むことにしました。読んでいくうちにいつも感じていた平安で心が満たされていくのがわかりました。しかもその平安がいつまでも心を満たしてくれていたため、そのときに「僕は聖書がある限り満たされ続ける」と確信し、「それならクリスチャンになってもいいかなあ」と思い、イエス様を受け入れる決意をしました。

それから僕は何に対しても恐れったり不安を感じたりする必要がなくなりました。そして「自分は自分でいいんだ」という自信も生まれてきました。

もうそれから一年半以上過ぎました。それまでの間、いろいろと楽しいことも辛いこともありましたが、辛い時こそ神様がそばにいてくれていると感じることができ、頑張っていける力を与えてくれることにいつも感謝しています。これからも日々心を新たに神様と一緒に歩んで行きたいと思います。

詩編51:12

神よ、わたしの内に

清い心を創造し

新しく確かな霊を授けてください。

今までいろんな人に出会い、また神様の愛にも出会いました。これからも毎日喜びに満たされて歩み続けようと思います。(By Toru)